

手太陰肺経の循行

肺手太陰之脉。起于中焦。下絡大腸。還循胃口。上膈。屬肺。從肺系橫出腋下。下循臑内。行少陰心主之前。下肘中。循臂内上骨下廉。入寸口。上魚。循魚際。出大指之端。

其支者。從腕後。直出次指内廉。出其端。

(『靈樞』経脈第十)

【書き下し文】

肺 手の太陰の脈は、中焦^①に起こり、下って（下に）大腸に絡う。還って胃口^②を循り、膈^③を上り、肺に属し、肺系^④より横に腋下に出で、下って臑^⑤の内を循り、少陰、心主^⑥の前を行き、肘中^⑦を下り、臂^⑧の内の上骨^⑨の下廉^⑩を循り、寸口^⑪に入り、魚を上る。魚際^⑫を循り、大指^⑬の端に出づ。

其の支なる者は腕^⑭の後より次指^⑮の内廉に直に出で、其の端に出づ。

【語意】

- ①中焦——この場合の中焦は胃、中脘穴、胃と並ぶものなどの諸説がある。
- ②胃口——噴門と幽門。
- ③膈——横隔膜、もしくは上焦と中焦を隔てる抽象的な隔膜。
- ④肺系——喉から肺に至るまでの気管、もしくは鼻から喉を通り肺までの気道の総称。
- ⑤臑^{どう}——上腕、肩関節から肘に至るまでの部位。
- ⑥少陰、心主——手少陰心経と手厥陰心包経。
- ⑦肘中——肘の中もしくは尺沢穴。
- ⑧臂^ひ——前腕。
- ⑨上骨——橈骨。
- ⑩下廉——下のへり。
- ⑪寸口——橈骨動脈の脈診部位。
- ⑫魚際——母指球と手背の境目。
- ⑬大指——母指。
- ⑭腕^{わん}——手首。腕関節。
- ⑮次指——示指。